

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目  
——コリント人への第一の手紙

メッセージ 14

ブレンディングの中で、またキリストのからだの実際の中で生きる

聖書：I コリント 12:12-27

- I. 神の中心的な啓示は、聖書における神についての漸進的な啓示です。すなわち、「独身の」神、肉体と成った神、贖う神、複合の神、強化された神、内住する神、合併された神です。合併された神は、からだ・キリストであり、「結婚した」神、すなわち究極的に合併された神、新エルサレムにおいて究極的に完成されます。
- II. 主の現在の回復は、召会生活におけるからだ・キリスト（「あのキリスト」）の回復です。からだ・キリストは、合併された神です。こういうわけで、キリストの中で歩くこと（コロサイ 2:6）は、からだ・キリストとしての彼の中で、すなわち合併された神の中で歩くことです（I コリント 12:12-13. 使徒 9:4-5, 15. コロサイ 2:19. エペソ 4:1-6, 15-16. ヨハネ 14:20, 23. 17:21）：
  - A. I コリント第 12 章 12 節は言います、「それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、あのキリスト [直訳] も同様だからです」。この節の「あのキリスト」とは、個人のキリストではなく、団体のキリスト、すなわち彼のすべての肢体と合併されたキリストです。
  - B. これは使徒パウロが征服されて悔い改めてキリストに立ち返った時に見た団体の「わたし」です。彼が見たのは、主イエスと彼の信者たちが一人の偉大な人、すなわち、すばらしい「わたし」であるということです。わたしたちが今日その中で歩いているキリストは、個人のキリストであるだけでなく、すばらしい「わたし」、からだ・キリスト、すなわち合併された神です（使徒 9:3-5. コロサイ 2:6）。こういうわけで、パウロだけが、新約聖書の中で、「キリストのからだ」という用語を用いました（ローマ 12:4-5. I コリント 12:12-27. エペソ 1:22-23. 2:16. 4:4, 16）。
  - C. キリストを受け入れ、キリストの中で歩くことは、からだ・キリストを受け入れ、その中で歩くことです。なぜなら、今日キリストは団体のからだであるからです。キリストはもはや個人のキリストであるだけでなく、団体のキリスト、すなわち、からだを伴うかしらです。団体のキリストの中で歩くことは、わたしたちのクリスチャン生活に大きな違いをもたらします。
  - D. 主の回復は「キリスト化」の回復、すなわち、純粹で完全なキリストの

パースンの回復であり、召会生活の中で、からだ・キリストの実際を得ることです——Ⅰテサロニケ 5:23. ピリピ 1:19-21 前半. 3:8-14. Ⅱコリント 2:10. コロサイ 3:10-11.

- E. 今日、主は召会生活の中で、からだ・キリストを建造しています。からだ・キリストの中で、キリストは彼のすべての肢体の中へと造り込まれ、彼のすべての肢体は、命における成長と命における造り変えによって、彼の中へと造り込まれ、キリストを表現します——2:19. ローマ 12:2. Ⅱコリント 3:18. Ⅰコリント 12:12-13 :

1. からだ・キリストの中で、わたしたちはキリストをすべてとして享受します——3節後半, 13節。
2. からだ・キリストの中で、すべての肢体は機能します——14-22節. 14:31。

### Ⅲ. 「神は……体を調和（ブレンディング）させられました」——12:24 :

- A. 「ブレンディングされる」という言葉は、「調整される」、「調和一致される」、「調節される」、「ミングリングされる」ことを意味し、それは区別を失うことを暗示します。ブレンディングが意味することは、わたしたちがいつでも立ち止まって、他の人と交わりを持つべきであるということです。
- B. 交わりはわたしたちを調整し、わたしたちを調和一致させ、わたしたちを調節し、わたしたちをミングリングします。わたしたちは、自分と組み合わされている他の聖徒たちと交わることなしに、何も行なうべきではありません。交わりは、わたしたちが何かをしようとする時に、何かすることをやめるよう要求します。
- C. ブレンディングされるとは、あなたが人に触れられ、あなたが人に触れていることを意味します。しかし、あなたはブレンディングの方法で人に触れるべきです。
- D. ブレンディングは、わたしたちが十字架につけられ、その霊によって存在し、キリストのからだのために、キリストを分与してあらゆることを行なうことを要求します。
- E. リー兄弟は主と共に完全にいるために、去る少し前（1997年3月24日）に、以下の「感謝を伴う交わりの手紙」を書きました、「主は、ブレンディングされた方法で、わたしと共に奴隷仲間として奉仕する多くの兄弟たちを準備してくださったことを、わたしに示してくださいました。わたしはこの事が、彼のからだのための主の主権ある備えであり、また彼の務めを完成するための最新の方法であると感じています」（ウイットネス・リー全集、1994年—1997年、第5巻（下）、「感謝を伴う交わりの手紙」、314ページ）。

- Ⅳ. わたしたちは使徒パウロの模範にしたがって、からだの感覚を持って、からだを中心とする必要があります。それは、わたしたちはからだの供給を享受することができるためです。からだの供給は、イエス・キリストの霊

の満ちあふれる供給であり、それは複合の膏油（聖なる塗り油）によって  
予表されています——ピリピ 1:19-21 前半、出 30:23-25：

- A. 複合の霊はからだの中にあり、からだのためであり、からだを建造する  
祭司の奉仕のためです——26-31 節、ローマ 15:16、I ペテロ 2:5, 9、詩  
133:1-3、エペソ 4:3。
- B. わたしたちは肢体のとりなしと交わりによって、その霊の供給を受けま  
す：
1. わたしたちは乾いているとき、また前進することができないとき、他  
の兄弟姉妹にわたしたちのためにとりなしてもらうことを必要としま  
す。そうしてはじめてわたしたちは切り抜けることができます——ピリ  
ピ 1:19、I テサロニケ 5:25、ヨブ 42:8-10。
  2. わたしたちは自分自身を神の中へと祈り込んで、命を与える霊をわた  
したちの供給として受けて、自分自身を養い、またわたしたちの顧みの  
下にあるすべての人を養い、からだを建造する必要があります——ルカ  
11:1-13。
  3. わたしたちはからだの供給なしに生きることはできません。ですから、  
わたしたちは絶えずからだの交わりを適用しなければなりません——  
I テサロニケ 3:8、I コリント 10:16 後半、I ヨハネ 1:3。
  4. わたしたちはからだの中で生きている限り、わたしたちの状態がどう  
であっても、からだの供給を受けます。ある人が光を見たいなら、召会、  
すなわち聖なる所に入らなければなりません——詩 73:16-17、マタイ  
5:14、啓 1:20。
  5. 投獄は、パウロをキリストのからだから隔離したり、彼をからだの供  
給から断ち切ったりはしませんでした——ピリピ 1:19。
  6. からだ全体は、肢体の間で相互に依存することを通して建造されます  
——I コリント 16:18、エペソ 4:16。
- V. からだの中には独立や、個人主義はあり得ません。なぜなら、わたしたち  
は肢体であり、肢体はからだから離れて生きることはできないからで  
す——ローマ 12:5、エペソ 5:30：
- A. 一人一人の信者はキリストのからだの肢体であり、一人一人の肢体は必  
要不可欠です——I コリント 12:15, 21、ローマ 12:3。
- B. 「もしわたしたちがからだの中のわたしたちの地位を真に見るなら、わ  
たしたちは二度目の救いを受けたかのようです」（ウオッチマン・ニー、  
「キリストの奥義」、第 3 章）——ヨハネ 1:50-51、創 28:17、I テモテ  
3:15。
- C. 自分がからだの肢体であることを見る人たちは、必ずからだを尊び、他  
の肢体を尊重します——I コリント 12:23-24、ピリピ 2:29、I コリント  
16:18、士 9:9。
- D. からだの啓示がある所には、からだの感覚があります。からだの感覚が  
ある所では、個人主義的な思想や行動は除き去られます：

1. わたしたちはからだを知りたいなら、わたしたちの罪深い命と天然の命から救い出されるだけでなく、わたしたちの個人主義的な命からも救い出される必要があります。
2. この世は御父に抵抗し（Ⅰヨハネ 2:15）、悪魔は御子に抵抗し（3:8）、肉はその霊に抵抗し（ガラテヤ 5:17）、個人主義はからだに抵抗します——参照、マタイ 16:21-26。
3. わたしたちはかしらから独立することができないように、からだからも独立することはできません。個人主義は、神の目に憎むべきものです。
4. わたしが知らない事を、からだの別の肢体が知っているでしょう。わたしが見ることのできない事を、からだの別の肢体が見るでしょう。わたしが行なうことのできない事を、からだの別の肢体が行なうでしょう。
5. もしわたしたちが肢体仲間の助けを拒絶するなら、わたしたちはキリストの助けを拒絶しているのです（Ⅰコリント 12:12. 使徒 9:24-25. Ⅱコリント 11:30-33）。遅かれ早かれ、個人主義的なクリスチャンはみな枯渇するでしょう。

**Ⅵ. もしわたしたちがからだの中に生きるなら、からだの保護を経験します：**

- A. からだはそれぞれの肢体に保護を与えます（マタイ 16:18）。キリストのからだは、神のすべての武具を身に着けています（エペソ 6:10-20）。
- B. 霊の戦いは、次のような原則にあります。すなわち、一人が千人を追い、二人が万人を敗走させるのです——申 32:30. 伝 4:9-12. ローマ 16:20。
- C. 孤立した個人は、容易に欺かれます。ですから、このためにもわたしたちはからだの覆いを必要とします——ピリピ 3:3. 使徒 21:4, 11-12。
- D. わたしたちはみな、からだの保護の実際を見て、からだの保護の下に隠れ、からだの保護を受けなければなりません。

**Ⅶ. わたしたちはからだの肢体として、他の肢体によって自分に制限を受けさせなければならず、また自分の度量を越えてはなりません：**

- A. からだの成長と発展のための基本的な要求は、わたしたちが自分の度量を認識し、その度量を越えないことです——エペソ 4:7, 16。
  - B. かしらは、わたしたちをからだの中の特定の地位に置き、わたしたちに特定の機能を持たせます——Ⅰコリント 12:18。
  - C. わたしたちはパウロのように、神がわたしたちに対して量った度量にしたがって動き、行動し、神の尺度、神の度量の限度の中にとどまるべきです——Ⅱコリント 10:13。
1. わたしたちが自分の度量を越えるやいなや、かしの權威を越えてしまい、油塗りの下から離れてしまいます。わたしたちは自分の度量を越える時、からだの秩序を犯すこととなります。
  2. 冷静な思いを持たずに、自分自身について思うべきことを超えて思い上がることは、からだの生活の正しい秩序を駄目にします——ローマ 12:3。

Ⅷ. わたしたちは常にからだを考慮し、からだを顧慮し、からだを尊び、からだにとって最も益になる事を行なうべきです—— I コリント 12:23-27 :

- A. 回復はからだのためであって、どの個人のためでも、あるいは単にどの個別の地方召会のためでもありません—— I コリント 12:14. ローマ 12:2, 4-5。
- B. 地方召会は、神のエコノミーの目標ではなく、神の目標に到達するための手続きです。その目標はキリストの唯一のからだの実際です。
- C. わたしたちは何かを行なうときはいつも、からだを正しく考慮し、わたしたちが行なっていることについて、からだがどのように感じるかを顧慮しなければなりません。
- D. わたしたちは、自己追求から救い出されて、からだに対して関心を持つことへと戻される必要があります。そうして、わたしたちはもはや、個人の益のために存在するのではなく、からだを建造するために存在するようになります。

© 2023 *Living Stream Ministry*